

名字と名前の順番に対する中学生の意識調査

Junior High School Students' Attitudes toward the Order of Family Name and First Name

意識調査 / 名前 / 中学生

酒井 英樹

SAKAI Hideki

I. はじめに

本調査の目的は、名前の言い方に対する中学生の意識を調べることである。日本名を、ローマ字で書く時、名字が先か、それとも名前が先か、意見が分かれる。日本人なのだから「姓+名」の順番(本来型)で書くべきだという意見もあれば、外国の言い方のように「名+姓」の順番(逆転型)でもいいという声もある。しかし、日本以外のすべての言語が、逆転型であるかということそうではない。

異文化理解教育の点から、名前を逆転型で言うのだと無自覚に教えて良いものだろうか。筆者の同僚が、生徒に“I am Takuya Kimura.”と練習させていた時のことである。その教師は、アメリカ出身のALT(在日3年)にモデルを示すように言った。そのALTは無意識的に“I am Kimura Takuya.”と言ったところ、その日本人教師は慌ててそのALTにわざわざ逆転型で言うように要求したのだ。その教師の訂正の根拠は、教科書では逆転型で教えているから統一して欲しい、というものであった。中学校教科書7種類の内、6種の教科書が逆転型で表記している(『現代英語教育7月号』, 1996)。本来型で表わしているものは、わずか*New Crown* (三省堂)のみである。現代英語教育が指摘しているように、「『英語では、名前をひっくりかえすんだぜえ。ジョーシキじゃん』という“常識”を身につけるのも無理はない」(p. 34)。

このような英語教育の現状に対して、本来型の使用を求める主張もある。例えば、一般世論の4分の1の人が本来型を使用した方が良いという。文化庁文化部国語課の「国語に関する世論調査」(1995年4月実施)によれば、「外国で使うためにローマ字書きの名刺を作る場合、姓と名のどちらを先に書くべきだと思うか」という質問に対して、2,212名の回答の内、逆転型が62.3%、本来型が24.6%、その他13.1%という結果であった(『現代英語教育12月号』, 1995)。メディアでも次第に本来型の使用を進めていることが報告されている(『現代英語教育7月号』, 1996)。森住(1997)は、主に個人や民族のアイデンティティーと異文化間理解の点から、本来型の使用を主張している。

たかが名前の言い方であるが、異文化理解教育を進める英語教師として、注意深く扱う必要があるだろう。本稿では、本来型にすべきか、逆転型にすべきか、という議論ではなく、教育を受ける側、つまり、生徒の側の意識を調査した結果を報告する。つまり、実際の中学生は本来型と逆転型の名前の言い方に対してどのように考えているのだろうか。この点が明らかになれば、単に本来型(逆転型)で教えるべきかという議論から、どのように教室で扱うべきなのかという示唆が得られると考えられるからである。

II. 調査方法

A. 被験者

筆者が前任校で担当した中学生 3 年生 61 人 (2 クラス) がアンケートに回答した。生徒が使用している教科書は、逆転型を採用している *New Horizon* (東京書籍) である。授業では名前に関する題材は特に扱っていない。筆者自身が自己紹介する時は本来型であるが、授業内で筆者が自分の名前を言う機会はめったにない。

B. 手順

1997 年 7 月 8 日・9 日の授業時間内に、アンケートを実施した。テストではないと強調し、教師が質問を読み上げながら回答するように指示した。回答時間は、約 15 分であった。

C. 観点

ローマ字で名前を書かせ、それが本来型か逆転型かについて調べる項目に加えて、自己紹介の場面 (アメリカ出身の人に対する時と中国出身の人に対する時) を提示し、どのように名前を言うか、書かせる質問を作成した。また、逆転型をどこで習ったかという項目と、どちらの言い方が好きかという項目を含めた。それぞれの質問項目に、なぜその言い方をするのか、自由筆記で回答を求めた。

III. 結果・考察

A. ローマ字の表記について

表 1 は、ローマ字で名前を書かせた時の順番を示している。約 40 % の生徒が本来型で自分の名前を書いている。英語教育関係者の名刺を調べた結果 (現代英語教育 7 月号, 1996) では、356 人中 329 人 (92.4 %) が逆転型で表記しており、27 名 (7.6 %) しか本来型で書いていない。これと比べると、中学生の本来型表記がかなり多いことがわかる。また、この結果は前述の一般世論の調査結果と比べても多い (本来型: 24.6% 一般世論 vs. 39.4 % 本調査)。

小柳 (1997) は、小学生においては、本来型がほとんどを占めると報告している。小学生・中学生・成人、さらに英語教育関係者という順序で、本来型から徐々に逆転型へ転向していくことが示されているのではないだろうか。

表 1. ローマ字表記の順番

	本来型	逆転型	その他
人数 (N = 61)	24 (39.4 %)	36 (59.0 %)	1 (1.6 %)

B. 自己紹介の場面を与えた場合

表 2 は、アメリカ人に自己紹介をする時と中国人に自己紹介をする時の名前の順番を示している。これをみると、ただ名前を書けと言われた時には本来型で書く生徒が多かったのに対して、この質問では相手によって順番を変えている傾向が見て取れる。アメリカ人には、86.9 % の生徒が逆転型を

採用しているのに対して、中国人には、54.1 % の生徒が逆転型で名前を書いている。

表2. アメリカ人・中国人に対する自己紹介の名前の順番

	本来型	逆転型	その他
アメリカ人に (N=61)	7 (11.5 %)	53 (86.9 %)	1 (1.6 %)
中国人に (N=61)	25 (41.0 %)	33 (54.1 %)	3 (4.9 %)

表3 は、1 人の生徒がアメリカ人と中国人で順番を変えているか、それとも同じ順番を採用しているかを表わしている。約3分の1の生徒 (18 名 31.0 %) が、相手によって順番を変えていることがわかる。本来型で通している生徒は、12.1 % に過ぎない。

表3. 順番の一貫性

アメリカ人・中国人	本来型・本来型	逆転型・逆転型	逆転型・本来型	本来型・逆転型
人数 (N = 58)	7 (12.1 %)	33 (56.9 %)	18 (31.0 %)	0 (0.0 %)

上記の結果から、中学生が相手のことを考慮して言い方を変える様子が示された。理由を調べてみるとさらにその傾向がわかる。それぞれの立場の理由を類型化した結果を表4 に示してある。詳しい理由は、付録B を参照されたい。

表4. 名前の選択理由

アメリカ人・中国人	類型	例
本来型・本来型	1. 日本だから 2. 言いやすさ	1. 日本に来たのだから、日本式に言う 2. 言いやすい。ファミリー・ネームが先の方がなんとなく良い。
逆転型・逆転型	1. 英語の汎用性 2. ローマ字・英語だから 3. 外国人だから 4. その他	1. 英語のように名前を前にした方がわかりやすいと思ったから。 2. ローマ字とかで、名前を書く時は名字を後にするから。ローマ字で書けと聞いているから。英語の決まりだから。英語やローマ字は、名前・名字という順番に決まっているから。 3. 日本以外は、名前が先、名字が後って教わったから。アメリカの人も、中国の人も名字が後だから。
逆転型・本来型	1. 相手に合わせて 2. その他	1. アメリカは、名字と名前が逆に言っているから。中国は、日本と同じに呼んでいるから。中国の人は日本と同じだと思ったから。
本来型・逆転型	無し	

本来型・本来型の理由は、2通りある。第1に、質問が「教室にお客がきました」と場面設定しており、日本にいるから日本式で自己紹介するというものである。第1の理由を述べた生徒は、場所を考慮していることになる。つまり、後で再び触れるが、もし場面がアメリカであったら言い方を変える可能性があるという点で、相対的な理由である。これに対して、第2の理由は、絶対的な理由と言える。すなわち、自分の名前を本来型で言う方が言いやすいからというものである。

逆転型・逆転型の理由は、主に3種類ある。第1の理由は、英語が世界的に通用しているので英語式に名前を言った方がわかりやすいというものである。自分の名前を理解してもらうことが目的であるのだから、順番は構わないという立場でもある。第2の理由は、指示がローマ字で書けというもので、ローマ字や英語では逆転型で書くのが決まりであるからというものである。これは、ローマ字＝英語という誤解がある。小学校のローマ字教育では、本来型で名前を書くようになっている。つまり、中学校で英語の授業でローマ字を習ったことが、ローマ字＝英語という誤解を生んでしまったと考えられる。第3の理由は、外国人はみな逆転型で名前を言うからというものである。これも、大きな誤解である。この理由の中に、「日本以外は、名前が先、名字が後って教わったから」というものがある。教育上の問題がここに見られる。

最後に、逆転型・本来型の理由としては、アメリカの方は名前が先だけど中国の方は日本と同じ感じだからというように、相手に合わせているというものがほとんどであった。つまり、相手の立場を考慮した相対的な理由である。

この節の分析をまとめると、2つの点が指摘できる。第1に、場面や相手の習慣を考慮して名前の順番を決定するという相対的な理由が見られることである。これは、(1) 日本という場所を考慮して本来型・本来型を採用する生徒、(2) 外国人はみな逆転型で名前を言うという誤解し、それに合わせようとして逆転型・逆転型を採用する生徒、そして(3) アメリカ人と中国人で順番を変える逆転型・本来型の生徒がいることからわかる。第2に、学校教育の影響が見られることである。英語の言い方をすればわかりやすいという認識や外国人はみな逆転型であるという誤解は、学校教育の場で作られている。この第2の点は、次の節からも明らかである。

C. 逆転型を教わった場所

表5は、逆転型を教わった場所を示しているが、明らかに学校という回答が多い(80.0%)。

表5. 逆転型を教わった場所 (複数回答可 無回答8名)

	学校	英語教室	テレビや新聞	その他
人数	44 (80.0 %)	6 (10.9 %)	1 (1.8 %)	4 (7.3 %)

D. 名前の言い方の好みとその理由

表6は、本来型と逆転型の両方を書かせた後どちらを好むかと尋ねた結果である。どちらでもいいと答えた生徒が半数以上いた(54.1%)。また、20%近くの生徒が本来型を好むと回答した。

表 6. 名前の言い方の好み

	本来型	逆転型	どちらでもいい
人数 (N = 61)	11 (18.0 %)	17 (27.9 %)	33 (54.1 %)

表 7 は、それぞれの選択の理由をまとめてある（詳細は、付録 C を参照されたい）。

表 7. 理由

順番	理由	例
本来型	1.日本人だから	1. 日本人だから。やっぱり日本人は普通名字を先に書くから。
逆転型	1.慣れたから。 2.かっこいいから。 3.英語の順番	1. 書き慣れているから。授業中のプリントで名前を書く時なども名字を後にして書いて、もう慣れたって感じ。 2. 日本語で書く時は名字が先だけど、英語で書く時は名字が後の方がかっこいいから。 3. 英語でそう言うから。
どちらでもいい	1.わかりやすさ 2.関係ない	1.どっちでも通じればいい。 2.どっちでも違和感がないから。

どちらでもいいという回答が多かったが、その理由としては、(1) 相手にわかればいいというものと、(2) 違和感がないというものがある。第 1 の、相手にわかればいい、という姿勢は、場面や相手を考慮して名前の言い方を変える回答に関係するのだろう。

後者の理由は、教科書などで逆転型の言い方に慣れてしまったことを示している。この理由は、逆転型の理由としても挙げられている。「慣れ」というのは、改めて指摘するまでもないが、教育の影響である。もし学校でそう教えなかったら、もし授業で本来型の書き方を要求されていたら、どっちでもいいという回答や、逆転型がいいとする回答は減っていたかもしれない。

森住 (1997) が逆転型で名前を表記する理由として 6 つの点を挙げている。(1) 相手の言語への適合、(2) 国際社会の合理性、(3) 慣用の遵守、(4) 外国語らしさへの憧憬、(5) 「日本帝国主義」復活の懸念、(6) 英語の音節の由縁。本調査の結果は、中学生においても、最初の 4 点の精神が見られることを示している。

IV. 英語教育への示唆

本調査の結果は、次の 2 点を示している。(1) 相手の立場やコミュニケーションの場面を考慮して名前の順番を変える傾向にあることと。(2) 学校教育の中で逆転型の名前の言い方に慣れていくこと。この結果を踏まえると、英語教育への示唆は何であろうか。

第 1 に、異文化情報を詳しく教える必要があるということである。中学生の頃から相手に合わせようとする「思いやり」が見られた。従って、外国の人はみんな逆転型で名前を言うという誤解を持っ

ていたのでは、その「思いやり」が無になってしまう。単純に、外国ではこうなんだ、という一般化した情報を教えることは慎みたい。

第2に、教育現場が作る「習慣化」に注意したい。生徒は逆転型に無理矢理慣れさせられていることはないだろうか。相手によって順番を変えるという生徒以外は、ほとんど無意識的にローマ字ではこういうものだと思い込んでいるところがある。

アンケート調査の余白にある生徒が記入した。「そんなに深く考えることはない」。たかが名前の順番で「そんなに深く考えることはない」のか。それとも、日本人のアイデンティティーに関わることなのか。異文化理解というのは、こうした些細なことから始まるのではないだろうか。

(長野県・豊丘村立豊丘中学校)

引用文献

研究社. (1995). 『現代英語教育 12 月号』

研究社. (1996). 『現代英語教育 7 月号』

小柳昭喜. (1997). 『非研究指定公立小学校における英語教育の試み』第27 回中部地区英語教育学会
三重大会発表資料.

森住衛. (1997). 「英語に表れる日本人名の表記法」『英語科教育における創造性』(pp. 39-54) 東京：
三省堂.

付録

A. アンケート

これはテストではありません。間違いを調べるものではありません。相談しないで、自分で思うように書いてください。説明をよく読んで、答えを書いて下さい。質問に答えてから、次の問題へ進んで下さい。

- ・あなたの学校名・学年・組・名前を書いて下さい(日本語で)。
- ・あなたの名前をローマ字で書いて下さい。ローマ字がわからない場合は、カタカナで書いてもかまいません。
- ・教室に外国人のお客様がやってきました。アメリカから来たそうで、日本語がわかりません。その方が、あなたの名前を知りたいそうです。何と言いますか。あなたの名前をローマ字で書いて下さい。
- ・今度は中国からお客様が来ました。中国の漢字は、日本と少し違うので、ローマ字で名前を書いて欲しいと言っているようです。ここにあなたの名前をローマ字で書いて下さい。
- ・あなたは、アメリカの方に名前を言う時に、タロウ ヤマダのように、名字を後にしましたか？それとも、日本式に名字を先に言いましたか。中国の方には、どうでしたか。次の記号の中から、選んで をして、下にその理由を書いて下さい。
 - a. アメリカの方にも、中国の方にも、日本式に名字を先にして「ヤマダタロウ」のように言う。

- b. アメリカの方にも、中国の方にも、日本とは逆に、名字を後にして、「タロウ ヤマダ」のように言う。
- c. アメリカの方には名字を後にして「タロウ ヤマダ」と言い、中国の方には「ヤマダ タロウ」と言う。
- d. アメリカの方には、名字を先に「ヤマダ タロウ」と言い、中国の方には「タロウ ヤマダ」と言う。

(理由)

- ・一回でも、タロウ ヤマダのように、日本語で書いた時と順番をかえて書いた人は、どこでそれを教わったのですか。
 - a. 学校でそう教わった。
 - b. 学校以外の英語教室で、そう教わった。
 - c. 教わった覚えはないが、テレビや新聞で見たことがある。
 - d. その他 (理由があったら書いて下さい。)
- ・あなたの名前を、ローマ字で名字を先にして、書いてみよう。あなたの名前を、ローマ字で名字を後にして、書いてみよう。あなたは、どちらが好きですか。番号に をしなさい。理由も書いて下さい。
 - 1. 名字が先、が好き。
 - 2. 名字が後、が好き。
 - 3. どちらでもいい。

(理由)

B. 名前の選択理由

アメリカ人・中国人	理由
本来型・本来型	-これが自分の名前だし、日本に来たのだから、日本式に言う。 -ファミリーネームが先の方がなんとなく良い。 -言いやすい。 -そのまま書けばいいと思った。 -書きたかった。 -ただなんとなく。
逆転型・逆転型	(英語の汎用性) -英語を大体しゃべれば、世界のほとんどの人に通じるから。 -アメリカも中国も英語を使うので。 -英語のように名前を前にした方がわかりやすいと思ったから。 -わかりやすいように。 -中国とアメリカの方は、日本語がわからないので、両方とも名字を後に書いて、名前を前にして書いた。 (ローマ字・英語だから) -アメリカの方と中国の方にわかりやすく言ったことと、ローマ字とかで、名前を書く時は、名字を後にするから。 -ローマ字だから、英語だと思った。

	<ul style="list-style-type: none"> -ローマ字だから。 -ローマ字で書くようになっていたから。 -ローマ字だから。 -学校で習ったから。 -英語やローマ字は、名前・名字という順番に決まっているから。 -ローマ字で書けと聞いているから。 -英語とかで言う時に芸能人とかじゃない場合は、名前を先に出すって教わったから。 -なんとなく。（「ローマ字で書け」って書いてあったから。） -英語の決まりだから。 -ローマ字で書いたから。 <p>（外国人だから）</p> <ul style="list-style-type: none"> -外国人は、姓名と名前を言う順番が逆だから。 -学校で「タロウヤマダ」ということを教わったから。 -中国人も名字が後だと思ったから。英語は世界共通だから。 -アメリカの人も、中国の人も名字が後だから。 -みんなそうだから。 -アメリカの場合は、名字が後と教わったので、中国の場合もそうした。 -アメリカにも中国にもローマ字で書くなら片方にそろえた方がいいと思うから。 -日本以外は、名前が先、名字が後って教わったから。 -名前を先にした方がいいかなと思ったから。 <p>（その他）</p> <ul style="list-style-type: none"> -なんとなく、勝手にそうなった。 -特に意味はない。
逆転型・本来型	<p>（相手に合わせて）</p> <ul style="list-style-type: none"> -アメリカは名前を前にして言っているから前にして、中国は日本と変わらないから。 -中国は漢字を使うし、名前の書き方を逆にすると、本当の名前も逆になってしまうと思ったから。 -アメリカの人は英語を話すから、英語の授業でそういうふうにしたから。中国は日本と同じ漢字を使っているから。 -アメリカでは、はじめに名前から言うから。中国は特に理由なし。 -アメリカの人は名前を逆に読むから。 -中国の人は日本と同じだと思ったから。 -アメリカの人たちは、日本と違って名前の方が先に言うから。 -なんとなく。アメリカっていうか、英語とかだと、いつも名字を後にしてるから。 -アメリカは、名字と名前が逆に言っているから。中国は、日本と同じに読んでいるから。 -アメリカの方は、名前が先だけど、中国の方は日本と同じ感じだから -英語では、よく名字を後にいうから。 -アメリカの人が聞きやすい。 -英語の授業で教わったから。 -中国人は英語がわからないから。 <p>（その他）</p> <ul style="list-style-type: none"> -こうしなきゃいけないから。 -わからないけど、判断的に。 -なんとなく。 -自然にそうなった。 -特になし。 -別に理由はないからよくわからない。言う時は、名字が後で書く時は名前が後って言う風になる。
本来型・逆転型	無し

C. 名前の順番の好みの理由 (自由回答)

順番	理由
本来型	<ul style="list-style-type: none"> -日本人だから。 -日本人らしいから。 -やっぱり日本人は普通名字を先に書くから。 -日本で名前を言う時に、名字が最初だから。 -日本語でも名字を先に書くから。 -いつもそうだから。 -いつも呼ばれる時は名字を先に言われているから。名字が先の方が普通のような気がする。
逆転型	<p>(慣れたから)</p> <ul style="list-style-type: none"> -書き慣れているから。 -手紙を書いて自分の名前を書く時も授業中のプリントで名前を書く時なども名字を後にして書いて、もう慣れたって感じだから。 -慣れていて書きやすい。 -書き慣れている。 -普段ローマ字で書く時はそうしているから。 -今までそうだったし、その方がなんとなくいいと思っているから。 <p>(かっこよさ)</p> <ul style="list-style-type: none"> -日本語で書く時は名字が先だけど、英語で書く時は名字が後の方がかっこいいから。 -見た感じで、名前が先だといい。 -名前が前に来る方がなんとなく良い感じがする。 <p>(英語の順番)</p> <ul style="list-style-type: none"> -英語でそう言うから。 -名前が先の方が英語らしい。
どちらでもいい	<p>(わかりやすさ)</p> <ul style="list-style-type: none"> -どっちでも同じとりかたができ、自分や相手にわかればいいと思ったから。 -その場に応じて変えればいいと思うから。 -どっちでも通じるから。 -どっちでも通じればいいから。 <p>(どちらでも関係ない)</p> <ul style="list-style-type: none"> -どっちでも違和感がないから。 -どちらから言っても、名前は変わらないと思うから。 -どちらにしても同じだから。 -名字が先にしたって、後にしたってそんなに変わらない。 -別に先でも後でもいいから。 -両方とも書くから。 -どっちにしたっていいと思うし、好きとか嫌いとか言うことでもないと思うから。 -どっちでも不便ではないから。 -どっちにしても名前はかわっていないから。 -どっちにしても名前だから。 -どちらでも自分の名前は名前だから。特に好きとか嫌いとかはありません。 -なんとなく。 -好きだから。